

救急の日「適正受診」を考える

手軽で便利！埼玉県救急相談

■電話相談

7 1 1 9 (または☎ 048-824-4199)

■子どもの相談

8 0 0 0 (または☎ 048-833-7911)

■AI 相談

急な病気やけがの際に、家庭での対処方法や医療機関への受診の必要性について、AI を活用したチャット形式で気軽に相談ができます。



埼玉県 AI 救急相談

※突然のけがや体調の変化に対し、アドバイスをおこなうもので、医療行為ではありません(365 日年中無休)。

新型コロナウイルス感染症についての相談は 24 時間対応の県民サポートセンターへ

☎0570(783)770

FAX048(830)4808

※曜日や時間帯によって異なる相談先を一本化し、一般的な相談のほか、感染が疑われる場合には帰国者・接触者相談センターを紹介しています。

みんなで守ろう「コロナ禍」の受診

■受診前の心がけ

- ・発熱などの風邪症状が見られたら、毎日体温を測定し、記録しておきましょう。
- ・基礎疾患(持病)をお持ちで症状に変化がある人、新型コロナウイルス感染症以外の病気が心配な人は、かかりつけ医などに電話で相談しましょう。

■医療機関にかかる時のお願い

- ・複数の医療機関を受診することで、感染が広がった例があります。複数の医療機関を受診することはお控えください。
- ・受診の際はマスクを着用し、診察室などでも医師の許可があるまではつけておきましょう。
- ・気になる症状があり、受診をする際は公共交通機関を利用しないようにしましょう。

救命講習会



と き 10月3日(土)午前9時～正午
ところ 幸手消防署西分署
内 容 心肺蘇生法(成人)、止血法、AED の使用方法など
対 象 埼玉東部消防組合管内に在住、在勤、在学の中学生以上の人
定 員 8 人(申込み順)
申込み 9 月 3 日(木)から電話、または最寄りの消防署所窓口へ
問合せ 埼玉東部消防組合
幸手消防署西分署☎(43)6966

耳鼻咽喉科の休日救急診療

休日・夜間に耳鼻咽喉科を救急で受診する場合、県内診療所で当番医を定めて初期救急を実施しています。詳しくは、県ホームページ(「埼玉県 休日耳鼻科」で検索)をご覧ください。



AEDはココにある！

市内の公共施設、小・中学校(12 か所)、医療機関(51 か所)、全コンビニエンスストアに設置。



市内 AED マップ



県内 AED マップ

AEDの貸出(最長 7 日間)

医療従事者または救命講習会を修了した人を配置することを条件とし、AED の貸出しを行っています。

対 象 市や自治会が主催・後援などをする事業、または市民が活動する営利目的でない行事
申 請 貸出希望日の 1 か月前から 2 週間前までに、借用申請書を健康増進課に提出
※詳細は、市ホームページ(「AED 貸出 幸手市」で検索。)で確認してください。
問合せ 健康増進課☎(42)8421・FAX(42)2130

9月9日は 救急の日



「救急の日・救急医療週間」は、昭和 57 年に救急医療や救急業務に対する正しい理解と認識を深め、意識の高揚を図ることを目的に定められました。
毎年 9 月 9 日が『救急の日』、救急の日のある 1 週間(日曜～土曜日)を『救急医療週間』としています。

“いのち”を運ぶ“救急車”の適正利用を！

全国の救急車の出動件数は毎年増加しています。本当に緊急を要する人のために、救急車の適正利用について、ご理解とご協力をお願いします。

- 定期的な通院や入院予定があるからと、タクシー代わりに救急車を利用することはやめましょう。
- 症状に緊急性がなく、「交通手段がない」「どこの病院に行けばよいのかわからない」といった場合、民間の患者搬送業者や救急電話相談などを活用しましょう。
- 救急車以外に搬送手段がなく、一刻も早く医療機関などに搬送しなければならない場合は、迷わず救急車を要請してください。

問合せ 埼玉東部消防組合幸手消防署☎(42)9119

熱中症にまだまだ注意



「新しい生活様式」での熱中症予防の行動ポイント

- ◆マスクをはずしましょう！
 - ・屋外で人と 2 m 以上(十分な距離)離れているとき
 - ◆こまめに水分補給をしましょう！
 - ・大量に汗をかいたときは、塩分も忘れずに
 - ◆エアコン使用中もこまめに換気をしましょう！
 - ・窓(換気扇)とドアなど 2 か所を開ける
 - ・エアコンの温度設定をこまめに再設定
- ※一般的な家庭用エアコンは、室内の空気を循環させるだけで、換気は行っていません。
- ◆日ごろから体調管理をしましょう！
 - ・毎朝、定時の体温測定と健康チェックを
 - ・体調が悪いときは、無理せず自宅で静養を
 - ◆3 密(密閉・密集・密接)を避けましょう！
 - ・熱中症になりやすい高齢者や子ども、障害者への目配り、お声掛けを！

子どもを守る



- ・子どもは体温調節機能が大人に比べて未発達です。
- ・全身に占める水分の割合も高く、外気温の影響を受けやすくなっていますので、水分補給を促す声かけや、気温と湿度にあわせた衣類の選択、車内に置き去りにしないなど、子どもは大人よりも熱中症になりやすいことを忘れずに、日頃から涼しく過ごせる工夫をしましょう。
- ・未就学児・児童・生徒の保護者のみならずには、常に子どもたちの健康状態を注視いただきまして、普段と違う変化などがありましたら、ためらわずにかかりつけ医などに相談してください。